W3T

冬期講習

解答

Ｚ会東大進学教室

一橋大世界史

1章　戦後史Ⅰ

添削課題

解答例

1945年に合衆国，49年にソ連，52年にイギリス，60年にフランス，64年に中国，74年にインドが核兵器を保有した。合衆国のみが核兵器を保有していた第二次世界大戦直後の時期には，合衆国が共産主義封じ込め政策を採り，ソ連がそれに対抗して，世界は東西陣営に二分化されていった。ソ連の核保有およびソ連と東欧諸国によるワルシャワ条約機構の結成は，こうした二極構造を決定的なものとした。両陣営の対立は核戦争の危機を生み，1962年のキューバ危機で緊張は頂点に達した。フランスや中国の核保有により米ソ両国の核独占が崩れる中，合衆国とソ連は1960年代の部分的核実験停止条約や核拡散防止条約に見られるような協調の局面を迎えた。核兵器の保有コストは高く経済的負担が重いため，経済の停滞が著しいソ連は，1985年以降ゴルバチョフが全面的な改革を進める中で，軍事費を圧縮すべく合衆国との間で中距離核兵器全廃条約を締結し，冷戦を終結に向かわせた。(400字)

解説

《冷戦》

知識があれば書きやすい問題である。「各国の核保有，各国間の核軍縮の経緯を押さえた上で」とあるので，この事実がしっかりと誤認なく書かれているか。解答例では年代をつけておいた。個々の年は思い出せなくても，経緯が問われているのだから，時代順に書くことが望ましい。この部分を確実に押さえた上で，「国際政治に核兵器が果たした歴史的役割」という本題にきちんと向き合うこと。

戦後史というのは複雑で，教科書だけではなかなか理解が進まない。この問題も，一極，二極，多極といった語句を使いながら戦後史の概略を学習していれば，さほど難しくはない。年代ごと，地域ごとと視点を変えつつ整理しておくとともに，1問でも多く問題を解きながら知識を多く習得していってくれればよい。

解答例は，一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば，千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

３章　総合演習Ⅰ

添削課題

解答例

19 世紀半ば以降の世界では，貿易の拡大に伴い，金本位制が広まって金の需要が高まり，第２次産業革命の進展に伴って登場した新たな産業に必要な資源の需要も高まった。黒人奴隷制度が廃止される一方で，資源の採掘や工業製品の生産，および鉄道敷設などの交通・通信網の普及を支える安価な労働力が世界各地で求められるようになったことが，中国やインドからの移民が大量に発生する要因となった。とくに開発の進む東南アジア・南北アメリカへの進出が顕著であった。進出先で財力を蓄えた移民の中には，Ａの自叙伝を著したガンディーや空欄アの孫文の要請に応え，植民地状態に置かれた中国やインドでの民族運動に対して送金を行い，支援する者も現れた。この時代に生じた大量移動が現在の社会に与えている影響としては，表３のマレーシアに見られるように，現地のマレー人以上に政治・経済の実権を握っており，国民の統合を阻む要因となっている点が挙げられる。（400 字）

解説

《移民》

19 世紀における移民の話は，合衆国への移民の話と中国・インドからの移民の話が入試問題では多くを占める。「出身国の国内政治といかなる関連を持ったのか」という部分は，2002 年の東大でも類題が出題されているし，史料から読み取ることもできる。「大量移動が移動先の社会に…」という部分は，表３にマレーシアの人口構成が掲載されているから，マレーシアのことだけで十分足りる。因みにマレーシアの話は地理の学習では基本事項となっている。

この問題で最大のネックとなるところは「大量移動は，いかなる歴史的状況の下で起こったのか」という部分である。何をもって「歴史的状況」と捉えればよいのかがよくわからない。例えば次のような解答である。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

中国はアヘンの密貿易で銀が流出したことで農村が疲弊していた。インドでもイギリスの植民地化で自給自足が崩れ貧農が出現していた。彼らは，移民として世界各地で低賃金労働を担うことになる。例えば，南アフリカの金・ダイヤモンド鉱山，マレー半島の天然ゴム農園・スズ鉱山の採掘といったものである。（以下略）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

確かに，これも歴史的状況であるし，具体的な事例が多く一見して点数をもらえそうな文章になっている。これでよいとする考えもあると思われる。解答例はもっと大きな 19 世紀の世界的状況から移民が出現する背景を書いておいた。具体的な事例を多く思い出せても，こうした背景に対する理解ができていることを解答内に示せないと，合格点に到達することは難しいだろう。

最後に，表１と表２について説明しておこう。答案に盛り込むべき内容を考察する上での参考にはなるが，答案に直接反映させる必要はないと見てよい。表１からは，インドから出国した人口の総計とインドへ帰国した人口の総計において，前者が圧倒的に多いことがわかる。要は，出国したインド人が現地に住み着いたことを表している。表２も中国人移民が海外（ここでは東南アジア）に住み着いたことを表している。住み着いているのだから，移動先の社会に影響を与えることになったのは当たり前の話といえる。

移民がどのような歴史的状況の中で出現したかは，移民の学習でしっかり押さえることである。彼らから孫文やガンディーが運動の資金を得ていたこともよく知られている。マレーシアが大量の移民の流入で複合社会と呼ばれていることもしかり。いつどのように出てもおかしくない題材であるから，しっかりと学習を深めておこう。

解答例は，一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば，千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

4章　総合演習Ⅱ

添削課題

解答例

普仏戦争でドイツがアルザス・ロレーヌをフランスに割譲させると，アルザス・ロレーヌ奪還はフランスの対ドイツ復讐の象徴となった。第一次世界大戦後はフランスがドイツに対する過酷なヴェルサイユ条約を強要し，賠償金返済の遅滞を理由にルール占領を起こした。第二次世界大戦中にはドイツがフランスを占領したが，第二次世界大戦終結後は合衆国とソ連をそれぞれの核とする東西両陣営が対立を深めていく中で，ヨーロッパの没落は決定的になった。ヨーロッパ諸国は米ソ両国に対する発言力を強めるために統合と経済復興を進め，たび重なる戦争の原因となってきたフランス・ドイツの対立の解消をはかり，1952 年には鉄鋼石と石炭の共同管理を掲げたヨーロッパ石炭鉄鋼共同体が成立した。こうした協調が実現した要因としては，冷戦が激化しドイツが分断される中でドイツの再軍備を恐れたフランスが，西ドイツを西側陣営に組み込むことを企図したことも挙げられる。（400 字）

解説

《フランスとドイツ》

フランスとドイツの関係がヨーロッパ統合の核となる，というヨーロッパ現代史の基本知識が問われているもので，フランス史とドイツ史の出題頻度が高い一橋大ならではの出題になっている。

しかし，じっくり問題を読むと，それほど簡単には書けそうにないことがわかる。「対立から協調へと変化していった過程とその原因」という問に答えるのは，中途半端な知識ではかなり難しい。それは「原因」が問われているからであり，教師にとっても受験生にとっても時間が足りない中で，現代史まで学習が十分に届いているかどうかが勝負の分かれ目になる。たいして難しくもないわけだが，現実にはここまで学習が届かないことも事実であって，学校での学習だけでこの知識を持っていた者は筆者の経験では皆無に近い。

「原因」の部分は，知らなかった場合は解答例を読んで覚えてもらうしかない。その上で，「そうだよな」という確認をもって知識を定着させておきたい。

指定語句に「ルール占領」があるために，第一次世界大戦からは必ず書かなければならない。しかし，第一次世界大戦の背後には普仏戦争以来の対立があるわけで，普仏戦争から書くのが妥当であろう。そうなると，解答例からもわかるように，思ったほど字数に余裕があるわけではなく，最後は苦しくなってしまう。本来ならば第二次世界大戦後から書かせてもおかしくない問題なのだが，指定語句にルール占領があるだけに仕方がない。

「過程」のところでは，米ソ両国の台頭に触れることが欠かせない。「原因」は最初の段階では書けなくてもかまわない。あとは事実誤認なく経緯を書くことができるかで，実際の試験の時には点数が分かれるだろう。

解答例は，一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば，千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

5章　総合演習Ⅲ

添削課題

解答例

第二次世界大戦でフランスがドイツに降伏したことを機に，日本はフランス領インドシナへ進駐した。ホー＝チ＝ミンはインドシナ共産党を中心に民族統一戦線であるヴェトナム独立同盟を組織して抗日運動を展開した。日本が第二次世界大戦で敗戦すると，ホー＝チ＝ミンが大統領となってヴェトナム民主共和国の独立を宣言したが，これをフランスが認めなかったためインドシナ戦争が勃発した。中国とソ連の支援を受けるヴェトナム民主共和国は，合衆国の支援を受けるフランスに対して戦争を有利に展開した。19 世紀末から合衆国の植民地支配下にあったフィリピンは，独立への移行期における太平洋戦争の勃発で，日本に占領された。フィリピン共産党が組織したフクバラハップを中心に抗日運動が展開され，戦後にフィリピンは独立して親米政権が成立した。共産主義的な傾向の強いフクバラハップは，政権から排除され，反米抗争を続けたものの鎮圧された。(393 字)

解説

《東南アジアの民族運動》

アジアの近・現代史は教科書を一通り読んだだけではなかなか流れを理解できないだろう。ディテールをしっかりと追う学習は自学では難しいので，教師の力に頼ってほしいところである。問題は決して難しいものではない。解答例ではヴェトナムとフィリピンを選択した。インドネシアを選ぶのもよし，ビルマ（ミャンマー）でも可能だ。ただ，ビルマとなると，さすがに調べれば何とかなるだろうが，何も見ないで書くのはまず無理であろう。

一橋大のアジア近・現代史対策は，難関私立大文系並みの知識を必要とする。その分，前近代のアジアは出題されることが少ないのだから，これくらいは我慢して覚えてほしい。

解答例は，一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば，千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

W3T
一橋大世界史

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製